

社会技術研究開発事業
平成19年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム「犯罪からの子どもの安全」

研究開発プロジェクト名

「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築

ハート・ルネサンス」

平成20年4月27日

研究代表者 池崎 守
(特定非営利活動法人さかいhill-front forum
・理事長)

1. 研究開発プロジェクト名

子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス

2. 研究開発実施の要約

①研究開発目標

現在、わが国で重要な命題となっている教育再生・地域再生に対して、地域の子どもの安全をテーマに広く人をつなぎ、討論を重ね地域社会の新しい形態を見つけ出す。普及する携帯電話やインターネットのツールを活用し、日本型オリジナリティに富んだ安全なまちづくりを進めていく中で、価値観の違う人と人のネットワーク・世代を超えた人と人のネットワークを構築し、理想とする地域社会を創る。犯罪からの子どもの安全を達成するため、上記の先端技術を活用して子どもの見守りシステムを構築し地域FM局も開局する。あわせて世代をつなぎ、人をつなぐ活動そして子ども自らが能動的に企画する活動を堺市立東文化会館を拠点に進めていく。

研究参画対象地域：堺市東区登美丘4校区

研究参画する小学校

- ・ 登美丘西小学校 (児童数 772名)
- ・ 登美丘東小学校 (児童数 423名)
- ・ 登美丘南小学校 (児童数 565名)
- ・ 野田小学校 (児童数 555名)
- ・ はつしば学園小学校 (児童数 710名)

②実施項目

a)会議の開催

- 1)関係組織・団体による協議会の発足と合同会議定例会の開催
- 2)住民との協議
- 3)フォーラムの開催
- 4)その他、個別会議を随時開催

b)IT技術を活用するためのシステム構築(子どもの見守りサイトをiDCに構築)

- 1)位置コードの構築
- 2)児童通学ルート生成
- 3)児童位置情報端末追跡システムの構築
- 4)一斉メール機能の構築
- 5)時系列情報共有システムの構築
- 6)子ども見守りWeb-GISシステムの構築

c)地域FM局開局に向けての準備

d)地域での活動

e)依頼された講演会等での講演

③実施内容

a)会議の開催

- 1)関係組織・団体による協議会の発足と合同会議定例会の開催

10月10日、10月14日、11月6日、12月12日、1月9日、1月18日、2月2日
2月13日、3月5日、3月12日、3月23日

2)住民との協議・・・毎月第2水曜日夜7時30分より（毎回約200名の参加）

3)フォーラムの開催・・・1月5日（土）東文化会館メインホールにて

4)その他、個別会議を随時開催・・・計41回開催

b)IT技術を活用するためのシステム構築

1)子どもの見守りサイトをiDCに構築

- ・位置コードの構築
- ・児童通学ルート生成
- ・児童位置情報端末追跡システムの構築
- ・一斉メール機能の構築
- ・子どもの見守り時系列情報共有システムの構築
- ・児童見守りWeb-GISシステムの構築

平成20年度より実際に運用する上記の子ども見守りシステムを構築した。

iDCに構築したサーバーは平成20年4月1日以降いつでも実動できる体制をとった。

c)地域FM局開局に向けての準備

事前電波調査を実施し、電解測定データ集計、検証。測定結果データをもとに申請手続きの準備をした。また、開局に向けてスケジュールと体制の整備を計った。

- ・送信点の概要と放送区域についての確定
- ・堺市東区内の潜在電解強度測定の実施
- ・周波数選定の検討

d)地域での活動

- ・登美丘地区で校種間連携を通じた公立の小中一貫教育に向けての種々の意見の集約
- ・青色パトロールカーによる子どもの見守り活動の充実と拡大
- ・警察・行政・学校・企業と住民が連携した合同パトロールの実施継続
- ・音楽を通じた活動・・・アンサンブル堺の結成・警察音楽隊と子どもたちの共演
- ・地域の小中高校生の参加による総合文化祭の開催
- ・小学生の子ども見守りスポーツ大会（500人参加・高校生も支援）
- ・駅前での朝のあいさつ運動
- ・子どもと地域住民一体となつての清掃活動
- ・放送局・新聞社と共催した展覧会を開催し、この研究開発プロジェクトを住民へ啓発・広報・・・「おもちゃと模型のワンダーランド」展
堺市東区の公立小学校全児童を無料招待・東区の幼稚園、保育園の園児を招くことにより、この研究の拡がりを狙う。
- ・伝統文化子ども教室を通じた啓発・・・子ども茶道教室を実施
- ・登美丘空手教室の実施・・・東文化会館にて大阪府警察官の指導による主に小学生を対象とした空手教室

上記に実施した活動（世代をつなぎ、人をつなぎ意見を交換するため）の一部を列挙したが、普段の生活に根ざした子どもの見守り・子どもが能動的に参画

できる事業の実施を住民あげて実現していきたいと考えている。来年度はより充実した活動を目指す。それぞれの活動を通じて、感動体験が得られ、子どもたちの地域社会の中でのいきいきとした姿を実際に見ることができた。これらの活動によって、人のつながりができ地域社会が新たに構築されると感じている。

e)依頼された講演会での講演

- ・ 10月6日 大阪府立大学にて「堺・南大阪地域学」にて講演
- ・ 10月21日 地域の会館にて 住民対象に研究開発プロジェクトの講演
- ・ 11月9日 大阪府防犯協会連合会の依頼により講演
- ・ 11月16日 スイスホテルにて 関西財界の依頼により講演
- ・ 11月17日 日本市民安全学会にて講演
- ・ 12月19日 桃山学院大学にて学生対象に授業にて講演
- ・ 1月30日 大阪府警察の依頼により防犯ボランティア交流会に出席
- ・ 2月17日 滋賀県の依頼により大津にて講演
- ・ 3月29日 大阪府の依頼によりリーダー養成講座にて講演

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

住民・学校・行政・企業が一体となつての子どもの見守りシステムを、現在日本に広く普及している携帯電話やインターネットのツールと地域FM局を活用して構築する。重要な課題である教育再生・地域再生（日本型オリジナリティに富んだ理想とする地域社会の創出）を成し遂げるため、「子どもの安全」をテーマに広く人をつなぎ、世代をつなぎ、多様な意見交換の場を持つ。ハード面とソフト面両面から住民による検証を重ね登美丘から堺市全体への広がりを狙う。合わせて、携帯電話を持つことによるマイナス面の検証も行い、負を乗り越えた活用を考え提案する。そのために、児童に対する地域の住民の通学路見守りや地域安全・安心ステーションの地域防犯活動に有効で最適な児童見守りシステムモデルを提案する。また、登美丘4小学校区とはつしば学園小学校で運用し評価することにより、校区内や広域の通学路に対する2つの異なる要件（学区の通学、広域通学）に対応できる見守りシステムの有効性、拡張性を評価し、本モデルの成果を広く提供できる模索を行う。わずか3年半での活動ではあるが、前記の活動を通じ、地域社会の変化、学校教育との連携の変化・・・プラスへの変化をあわせて検証する。

まず、平成19年度半年間については上記研究開発目標を達成するため下記の具体的な方法・内容を実施する。

(2) 実施方法・実施内容

a)会議について

このプロジェクトに関係する自治会・学校・防犯委員会・行政をはじめ地域の各団体と協議会を発足し、合同会議を開催した。そのあと地域住民への提案を行い、警察とともに合同パトロール(200名の参加)も実施した。その他、随時個別会議を実施し問題点を話し合った。合わせて、登美丘地区以外でも広がりを持つことができる方策を検討した。

- ・ 公立小学校での通学で、児童は携帯電話を持つことができるのか
- ・ 時系列にデータが集まる情報共有システムの掲示板の問題点
- ・ 堺市全域に拡げる前に堺市東区にこのシステムを拡げることができないか
- ・ 子どもの見守りのシステムを地域防災・高齢者見守りにどう活かすか
- ・ 住民への提案をどのようになすのか
- ・ 科学的な検証はどうすれば測れるのか
- ・ 地域社会の変化は何によって検証すればいいのか
- ・ この研究開発プロジェクトを進めていく上で、どのような地域活動が有効なのか
- ・ どのような行事を通じて啓発していくべきか

以上、解決できていない課題も多くあるが、さまざまな意見の中から今年度構築したシステムを利用しながら、来年度の実施に取り組むことができると考えている。

平成20年1月5日(土曜日)フォーラムを開催した。フォーラムの後、小学生も含めての防災活動と清掃活動を実施した。

会議での検討課題と内容

- ・ 会議開催日に地域防犯経路など現地確認の実施
- ・ 子どもの見守り研究システム内容の確認及び協議
- ・ 子どもの見守り研究システム運用協議
- ・ 進捗状況確認
- ・ 子どもの見守りシステム構築体制の説明
- ・ 子どもの見守りを住民側運用体制でどこまで可能か
- ・ 子どもの見守り学校側運用体制の問題点と可能性
- ・ 子どもの見守り防犯端末により実験参加者の選出
- ・ 子どもと保護者の見守り端末の設定
- ・ 保護者による通学路の登録
- ・ 危険区域の登録
- ・ 地域情報共有掲示板利用者の登録とその問題点の整理と課題
- ・ 一斉メール配信参加者登録の呼びかけをどうするか

b)子どもの見守りサイトを i D C に構築

構築した内容

- 子どもの見守り(GPS 携帯電話を利用)
 - ・ 児童に防犯端末(市販の防犯向け携帯電話)を配布することで、地域の子どもの見守る保護者や学校、自治会(見守る側)の所有している携帯電話などで、子どもが危険を察知したときの自己位置を保護者へ通知、保護者から子どもの居場所を確認するシステムを構築した。

- 児童通学ルート生成
 - 学校から自宅までの通学路で友達と別れてそれぞれ一人になる場所がある。各保護者が、自宅から学校までの通学路を Web-GIS 上に記載できる機能を提供する。これにより、児童位置情報端末追跡システムで、登下校時間帯に児童毎に登録した通学路から大きく逸脱した場合の位置情報をトラッキングする。
 - 保護者に児童が通過したり到達したりするときに着いたことを知らせる場所を指定できる。
- 児童位置情報端末追跡
 - 子どもごとの家から学校までの通学路を見守り対象にインターネットの Web-GIS により、地図上に自宅から学校までの通学路を記載することで、防犯端末（市販の防犯向け携帯電話）の GPS 機能を活用して子どもの通学を見守る機能を構築した。
 - 児童が中継箇所を通過、学校に到着、家に帰宅などの状況を保護者に知らせることを可能とする。
- 一斉メール配信
 - 学校、保護者、自治会で、日ごろの子どもの見守り活動の連絡ツールとして、子どもの見守りに関係する組織、団体とメンバーに一斉に連絡できるシステムを構築した。また、緊急時にも保護者や学校、自治会間で緊急メールによる連絡を行えるようにする。
- 子どもの見守り時系列情報共有システム
 - 地域の日ごろの子どもの見守り活動を時系列に情報共有できる地域情報共有掲示板を構築した。住民や保護者が所有するインターネットに接続した PC、Fax、携帯電話のメールから情報登録でき、PC や携帯電話から時系列で地域の子どもの見守り活動をタイムリーに把握できる。
- 児童見守り Web-GIS システム
 - 上記のシステムにおける背景地図として、位置コードをもとにどこでも 10m 四方の位置を特定できる仕組みを構築した。位置コードは、地域メッシュ基に世界中をシームレスに位置特定できるコードに体系化したものである。これにより、犯罪が起きやすい死角となる場所や住所のない場所を含めどこでも絶対位置で正確な位置を特定できる。
- 位置コードを構築

標準地域メッシュ体系に準じてメッシュ分割し、全国をシームレスに検索できる数値コードを体系化した。「標準地域メッシュ体系」を利用することで、全国のシームレスな位置検索だけでなく既に体系化している国土数値情報を位置に合わせて活用できる。

(3) 研究開発結果・成果

A. 子どもの見守りサイトを iDC に構築

構築するシステム内容

▶ 子どもの見守りシステム

- 児童に防犯端末（市販の防犯向け携帯電話）を配布することで、地域の子どもの見守る保護者や学校、自治会（見守る側）の所有している携帯電話などで、子どもが危険を察知したときの自己位置を保護者へ通知、保護者から子どもの居場所を確認するシステムを構築した。

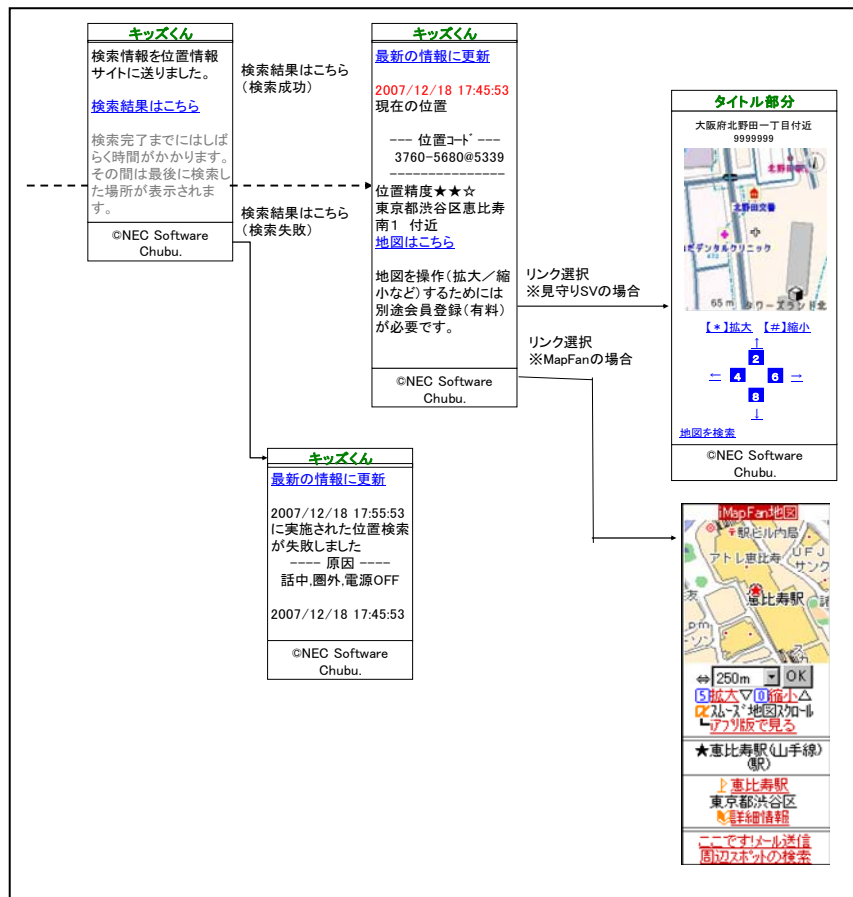


図1, 保護者の携帯電話で子どもの今居る居場所を確認

▶ 児童通学ルート生成

- 学校から自宅までの通学路で友達と別れてそれぞれ一人になる

場所がある。各保護者が、自宅から学校までの通学路を Web-GIS 上に記載できる機能を提供する。これにより、児童位置情報端末追跡システムで、登下校時間帯に児童毎に登録した通学路から大きく逸脱した場合の位置情報をトラッキングする。

- 保護者に児童が通過したり到達したりするときに着いたことを知らせる場所を指定できる。

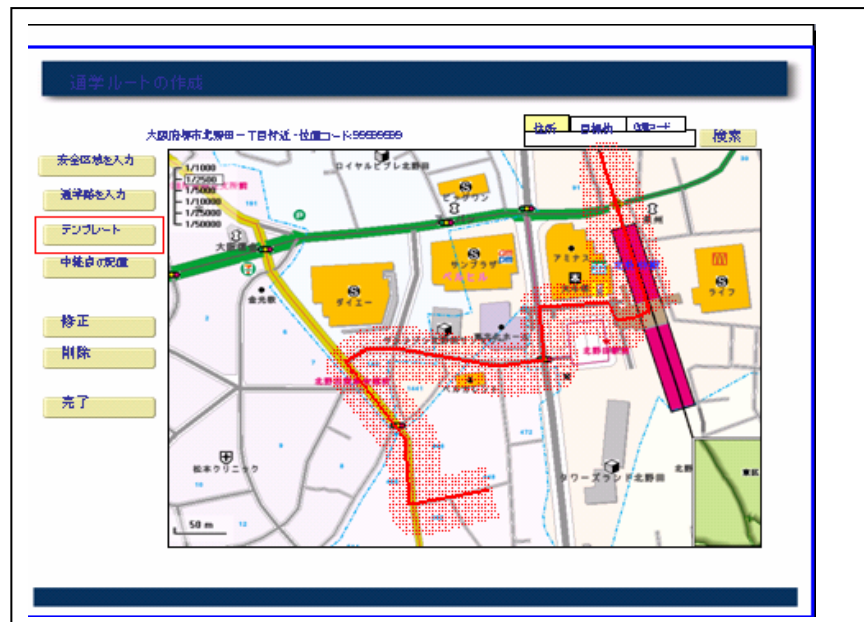


図2 子どもごとの通学経路を保護者により登録

➤ 児童位置情報端末追跡機能

- 子どもごとの家から学校までの通学路を見守り対象にインターネットの Web-GIS により、地図上に自宅から学校までの通学路を記載することで、防犯端末（市販の防犯向け携帯電話）の GPS 機能を活用して子どもの通学を見守る機能を構築した。
- 児童が中継箇所を通過、学校に到着、家に帰宅などの状況を保護者に知らせることを可能とする。

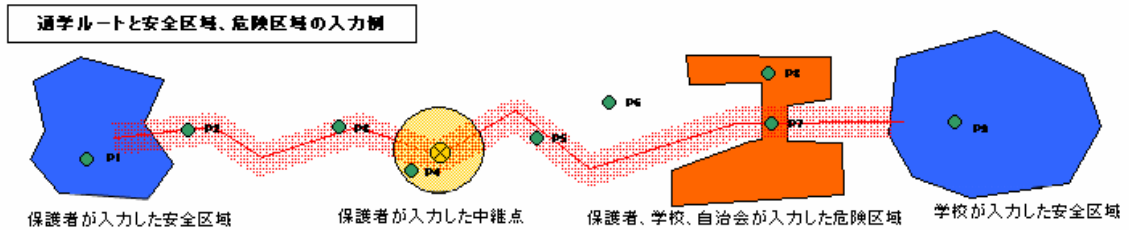


図3. 通学経路と防犯端末の位置情報の比較

通学路からの逸脱	中継地点を通過	危険箇所への侵入
見守り検知	見守り検知	見守り検知
"AAA"さんが登校ルートから逸脱しました。	"AAA"さんが中継地点を通過しました。	"AAA"さんが警戒区域"危険箇所A"に侵入しました。
2007/12/18 17:45:53 現在の位置	2007/12/18 17:45:53 現在の位置	2007/12/18 17:45:53 現在の位置
--- 位置コード --- 9999999	--- 位置コード --- 9999999	--- 位置コード --- 9999999
位置精度★★☆ 大阪府北野田一丁目付近 地図はこちら	位置精度★★☆ 大阪府北野田一丁目付近 地図はこちら	位置精度★★☆ 大阪府北野田一丁目付近 地図はこちら
©NEC Software Chubu.	©NEC Software Chubu.	©NEC Software Chubu.

図4. 子どもが通学路から逸脱したり、通過点に達したり、危険箇所に侵入した場合の保護者の携帯電話に配信する画面

- 一斉メールシステムの構築
 - 学校、保護者、自治会で、日ごろの子どもの見守り活動の連絡

ツールとして、子どもの見守りに関係する組織、団体とメンバーに一斉に連絡できるシステムを構築した。また、緊急時にも保護者や学校、自治会間で緊急メールによる連絡を行えるようにする。

一斉メール送信

送信先、本文の入力をしてください

送信先

学校/地区	学校	1班	2班	3班	4班	5班
1班	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2班	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3班	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4班	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5班	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6班	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

配布方法

即時
 計画的
 自治会・学区

件名

本文

送信時刻を指定する。
 スケジュールを指定して送信する。

2008 / 8 / 4 00 : 00 : 00

送信 保存 戻る 送信履歴 閉じる

図5. 一斉メールシステム共通メニュー

- 子どもの見守り時系列情報共有システム（保護者、学校、自治会）
 - 地域の日ごろの子どもの見守り活動を時系列に情報共有できる地域情報共有掲示板を構築した。住民や保護者が所有するインターネットに接続したPC、Fax、携帯電話のメールから情報登録でき、PCや携帯電話から時系列で地域の子どもの見守り活動をタイムリーに把握できる。

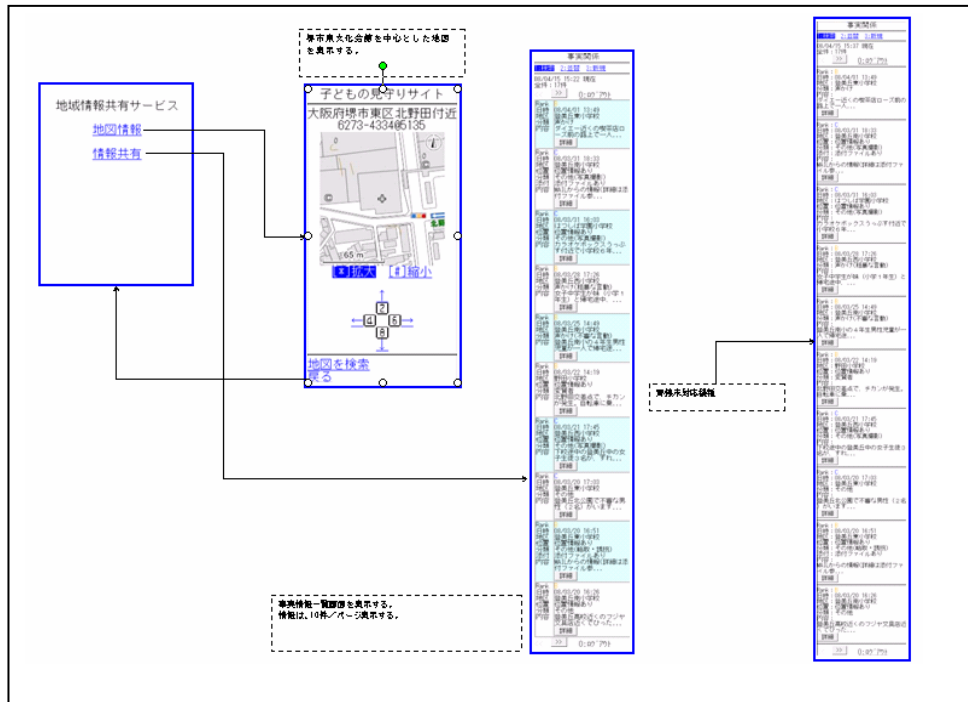


図8. 地域情報共有システム携帯版

➤ 子どもの見守り Web-GIS (保護者、学校、自治会)

- 上記システムにおける背景地図として、位置コードをもとにどこでも 10m四方の位置を特定できる仕組みを構築した。位置コードは、地域メッシュ基に世界中をシームレスに位置特定できるコードに体系化したものである。これにより、犯罪が起きやすい死角となる場所や住所のない場所を含めどこでも絶対位置で正確な位置を特定できる。

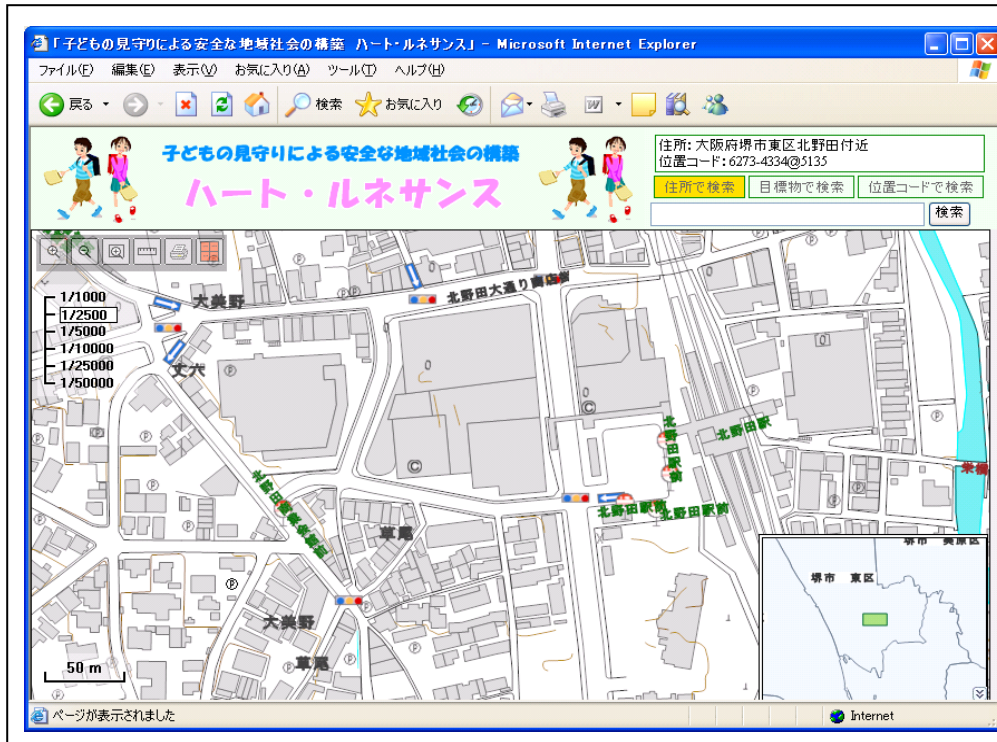


図9. 子どもの見守り Web-GIS

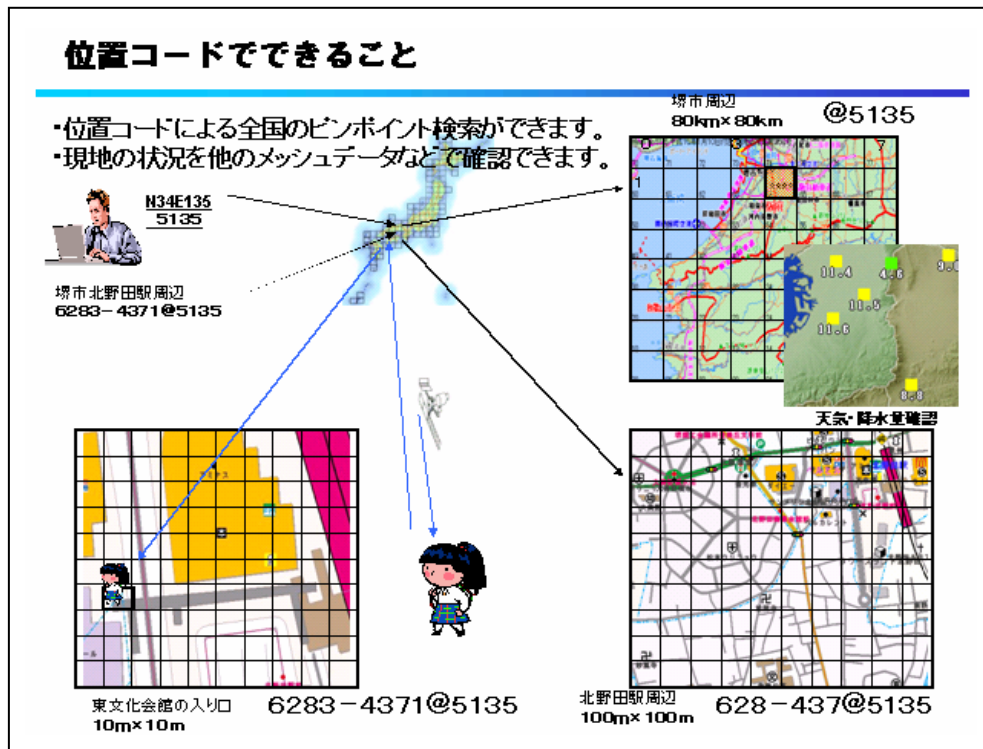


図10. 位置コードによる10m四方の位置特定

子どもの見守りにおける位置の特定は、未然に事件を拡大させないためにも重要である。住所や地図、目標物の従来の位置特定では、防犯では十分とはいえない。そこで位置コードを補完的に活用して、住所がなかったり、飛び地、住所だけでは場所がわからないなどでも位置特定できるようにする。従来のNコードでは、多くの人知らないことや、公共的な位置統計情報とは別で、理解できても独自性が強いなどの課題があった。そこで、発展的な課題の解決を検討した結果、総務省の統計や国土地理院の公共地図の図郭に使われている地域メッシュを採用して、他の統計情報や公共地図とも同期が取れる新たな位置特定手法を考案した。

以上、平成19年度に構築すべき子ども見守りシステムは予定通り構築した。特に、新しい位置コードでの居場所確認の有効性を使用する皆様方から評価を仰ぎ、ルートビルダー投入による有効性を使用する皆様方と研究開発者により評価していきたい。

了解の得られた住民の方に携帯電話を持っていただき、東文化会館に設置した大画面にその位置を表示し、保護者の方がどのように子どもの居場所を確認できるか実証実験したいと予定している。

B. 地域 FM 局の開局準備

- ・送信所を堺市東区北野田 1084-136 の堺市立東文化会館文化ホール屋上に設置することに決定。
- ・堺市東区を放送区域内に設定することを決定。
- ・放送区域内の受信潜在電解強度を測定し、割り当て可能な周波数の有無を調査した。
- ・今後の開局申請準備の作業内容と担当区分を検討。
- ・開局体制スケジュールフロー図の作成。

まとめ

FM 放送局の周波数選定方法の基準により堺市東区における FM 波帯全体について使用できると考えられる周波数を検討しました。

1. 堺市東区(3 mv/m)カバーを北野田の堺市立東文化会館より電波を送信した場合、従来の3素子八木アンテナ1段1面の指向特性では北野田直下のサービスが困難なため、アンテナメーカーと検討をして前記した改良型の八木アンテナを採用し、出力5W(ERP15.3W)で検討をした。

2. 周波数選定をした結果、電界強度測定と受信状況から考え周波数選定表周波数使用の可否欄に記載されているうち、計8波のチャンネルが一応使用が可能と考えられる。
3. 放送波中継回線の検討も受信空中線の指向特性の角度損は考慮していないので既設FM局の受信入力を60dBに仮定しD/U比を考えた場合±100～400KHzの周波数帯を確保した。
4. 細部の周波数選定および送信出力については関西地区はFM波が非常に混雑しているため、近畿総合通信局放送部放送課と緊密に連携をとり、調整をお願いして検討を進めていきたい。
5. アンテナは、屋上アーチ上3m高に設置する必要がある。

(4) 開催したワークショップ、シンポジウム、会議等の活動

個別の会議は半年間で41回開催した。主な会議とフォーラムを下記に記す。

平成19年度

年月日	名称	場所	概要
10月10日	ワークショップと合同会議	東文化会館	200名参加により、通学経路作成と今回の研究開発の説明
10月14日	合同会議	東文化会館	関係者による協議会の立ち上げの会議
11月6日	合同会議	東文化会館	堺市・NECほか協議会メンバールートビルダーによる経路作成のワークショップを兼ねて位置コードの立ち上げの検討
11月14日	会議	東文化会館	200名参加 実際にルートビルダーを使った経路作成のデモンストレーション
12月12日	合同会議	東文化会館	これからの事業の説明と検討 1月5日実施予定のフォーラム準備
1月5日	フォーラム	北野田フェスティバル	約200名の参加 フォーラムの後、駅前清掃と防災まちづくり訓練の実施
1月9日	合同会議	東文化会館	フォーラムの反省とプロジェクトの今後の進め方と活動計画の策定 青パト増車の検討

1月18日	合同会議	東文化会館	主に会計の問題についての打ち合わせ
2月2日	ワークショップと合同会議	北野田フェスティバルと登美丘地区の通学路の検証	住民50名の参加。北野田フェスティバルにて会議のあと、通学路の経路生成のため、また危険箇所点検のためみんなでまち歩き。合わせて登美丘の文化を郷土史家により実地にて講演。終了後、みんなで会食し、この研究開発プロジェクトへの意見交換会
2月13日	合同会議	東文化会館	通学路の整備について 登下校時の子ども見守りのポイントなどの入力について 青パトの増車について決定
3月5日	合同会議	東文化会館	世代をつなぐ、人をつなぐイベント開催の決定 通学路と避難経路について 音楽・芸術文化・スポーツを通じて子どもの見守りを促進する事業の開催の決定
3月12日	合同会議	東文化会館	通学路へのグリーンベルト整備の報告 子ども見守りサイトの主な機能の説明
3月23日	ワークショップと合同会議	北野田フェスティバルに集合、会議の後狭山池までまち歩き	子どもの見守りサイトの住民への説明と討論会 約30名参加 子どもも参加 その後、狭山池まで通学危険場所を確認しながら散策

上記合同会議は関係団体で立ち上げた協議会の会議。

(5) 研究開発実施におけるその他の活動

子どもの見守りに関して、私たちのチームは日々実践しているまさに現場である。朝の公園の掃除にはじまり、登下校の子ども見守り、夜の青少年の見守り等、世代をつなぎ、人をつなぎ実施している。理想的な地域社会の構築に向けて種々の地域での活動、特に堺市立東文化会館【(生涯学習施設)と北野田フェスティバル(文化ホール)】を拠点に活動を進めている。音と光の効用についても研究したいと考えている。このプロジェクトを啓発し、広報し、そして議論をしていただくために実施した活動とこのプロジェクトを堺市東区に広げるために実施した事業の一部を下記に列挙する。

- ・毎週土曜日大阪府警察官による子ども空手教室の開催
- ・子ども茶道教室の開催・・・裏千家による伝統文化教室、また伝統芸能狂言へ小学生を参加させてのワークショップ
- ・アンサンブル堺を結成し、地元小中高の子どもたちと共演・・・音楽療法
- ・警察音楽隊のコンサートに地元小学生80名出演し、合唱する
- ・NHK・新聞社と共催の展覧会「おもちゃと模型のワンダーランド」開催
東区の公立小学校の全児童と保育園・幼稚園の園児を招き、この開発プロジェクトの啓発と広報
- ・小中高高校生も一緒になったの清掃活動
- ・駅前での住民と高校生による朝のあいさつ運動と防犯まちづくりの啓発活動
- ・小中高を巻き込んだ総合文化祭の開催
- ・小学生を対象にした登美丘地区全体の子どもスポーツ大会
- ・教育委員会と連携した芸術活動の推進
- ・堺市東区の行事での小学生をはじめ子どもたちの参画・・・司会
種々の活動については、詳細報告書にまとめたと考えている。

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- ・住民・学校・行政・企業が一体となっただけの子どもの見守りを、現在日本に広く普及している携帯電話やインターネットのツールを活用したシステムを構築した。平成20年度にて、本子どもの見守り研究システムを研究対象地域である堺市東区の登美丘4校区の公立小学校4校と私立のはつしば学園小学校に活用展開する。
- ・公立小学校については各校5名程度で実験する。私立はつしば学園小学校については、全校児童を対象に実施する。その他10台のGPS携帯は青色パトロールカーへ2台と地元の住民へ8台を持っていただき、堺市立東文化会館に設置する大画面のモニターにて公開実験を行う予定である。
- ・奈良県にある奈良学園小学校全児童100名もこのシステムによる保護者・学校主体の見守り活動をしていただくことに決定した。
また、現場の見守り活動を通じたこの研究開発プロジェクトの拡がりを狙うため、青色パトロールカーを1台増車し、堺市東区の白鷺地区でも子どもの見守りの活動を進めて頂くことになった。
- ・小中一貫教育については、教育委員会との協力をもとに住民による意見を集め、体制整備をはかっているところである。
- ・先端技術を使ったシステムの利用を進めていく中で、ツールの評価・検証は学校、地域でしていきませんが、あわせて子ども自らが能動的に活動する事業の実施、世代をつなぎ人をつなぐ種々の事業を並行して実施しながら地域社会の在り方を考えていきたい。これらによって、地域再生・教育再生が普段の生活の中で成し遂げることができると考えている。

5. 研究開発実施体制

「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」グループ (池崎 守)

氏名	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
池崎 守	特定非営利活動法人さかい hill-front forum	理事長	協議会統括 協議会事務局 地域活動推進 FM放送局運営
金澤 秀郎	大阪府立登美丘高等学校	学校長	高校の地域活動参加
鳥井 廣二	堺市教育委員会	教育次長	4校区小学校統括
池西 隆昭	堺市 東区役所	区長	4校区行政統括
岡 秀吉	はつしば学園小学校	事務長	はつしば学園小学校統括
村上 卓己	中部日本電気ソフトウェア 株式会社	営業部長	子供の見守りサイト 構築・維持
西岡 徹	有限会社NCプロジェクト	代表取締役	地域コンテンツ登録・ 維持

研究開発を実施する上で研究開発チームのアドバイザーとして次の2人に参画していただく。
 明治大学助教授 山本俊哉様 (総合指導)
 大阪工業大学教授 吉村英祐様 (企画および科学的検証の指導)

6. 研究開発実施者

①「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」グループ（池崎守）

氏名	所属	役職
研究代表者 池崎 守	特定非営利活動法人さかいhill-front forum	理事長
金澤 秀郎	大阪府立登美丘高等学校	学校長
鳥井 廣二	堺市教育委員会	教育次長
池西 隆昭	堺市 東区役所	区長
岡 秀吉	はつしば学園小学校	事務長
村上 卓己	中部日本電気ソフトウェア株式会社	営業部長
西岡 徹	有限会社NCプロジェクト	代表取締役

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 論文発表

なし

(2) 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

なし

(3) 新聞報道・投稿、受賞

なし

(4) その他の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

招へいによる講演（主なもの）

- ・堺・南大阪地域学フォーラム 平成19年10月6日 「地域における青少年育成の取り組み」 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
- ・防犯ボランティア地域交流会での講演 平成19年11月9日 「ボランティア活動の進め方について」 プリムローズ大阪
- ・泉州キワニスクラブで講演 平成19年11月16日 「南大阪での防犯まちづくり活動」 スイスホテル
- ・安全なまちづくりシンポジウムin SAKAI 平成19年11月17日 「地域の安全力を高めるまちづくり」 じばしん南大阪
- ・桃山学院大学ゲスト講師 平成19年12月19日 「フィールドワーク方法・ご近所の底力でまちづくり」 桃山学院大学
- ・地域安全安心ステーション実施地区意見交換会へ出席 平成20年1月30日 この件については講演はしていない。5名で参加し意見交換する プリムローズ大阪
- ・「なくそう犯罪」地域防犯活動交流会での講演 平成20年2月17日 「安全なまちづくり 世代をつなぎ・人をつなぎ」 大津市民会館（滋賀県より依頼）
- ・安全なまちづくり・リーダー養成講座修了者交流会にて講演 平成20年3月29日

「まちづくり 世代をつなぎ・人をつなぎ」 国民会館大ホール （大阪府より
依頼）